

これはJARDから来た質問に対する解答の例です。

質問内容:

「平成17年12月に施行された新スプリアス規格に合致している。」旨の記述がありますが、メーカーから提出されている新スプリアス規格に適合している旨の証明を電子申請ファイル内に添付してください。」

回答:

PicoAPRSは、ETSI（欧州電気通信標準化機構）の定めるEU域内で商品として販売されているアマチュア無線機器が守らなければならない技術基準

(Commercially available amateur radio equipment; Harmonised Standard covering the essential requirements of article 3.2 of the Directive 2014/53/EU) を定めた文書 "ETSI EN 301 783 V2.1.1 (2016-01)" に準拠しており、その旨がPicoAPRSのマニュアルに記されております。

以下2点を申請書に添付します。

1. ETSIの上記規格文書の写し
2. PicoAPRSマニュアル（最後の25ページの"6. EU Declaration of conformity"の中に"Radio EN 301 783 V2.2.1 (2016-01)"として記されています。バージョン番号が違っていますが、発行年度は一緒ですので、V2.1.1のことを指しているものと推量します。）

質問内容:

「周波数の設定について、日本国内で許可されていない周波数について、どのように設定をされ、周波数帯を逸脱をしない対策をされているのかをご説明ください。」

回答:

PicoAPRSの送信周波数設定画面では、144.0000MHz から 146.0000MHz までの周波数しか設定できず、146.0000MHzを超える周波数を設定しようとすると、146.0000MHzに戻されてしまいます。よって、日本国内で許可されていない周波数では、送信できないようにプログラムされており、これは利用者によって変更でき

ないため、周波数帯を逸脱することはないと推量します。

「送信機系統図に目的の周波数を得る為の周波数生成過程を記載してください。」

回答：

周波数生成は送信モジュール SR_FRS_1WV の中でDDSを使用して直接生成されています。この旨送信機系統図に書き加えました。

[以上]